

執筆者紹介

木田 拓雄

関西学院大学 社会学部中退 会社役員・作家
1980年、「二十歳の朝に」で新潮新人賞受賞。
スポニチ他で小説、エッセイなどを連載。著書に
長編小説『秋の苦い光』（1997年 角川書店）な
ど。

ヨアン・ヘンリク・ペーターセン

1985年デンマーク・オーゼンセ大学社会科学部
部長就任。現在、同大学社会科学部新聞学科長。
1995年よりデンマーク国立社会研究所社会福祉研
究センター長。専攻は新聞学・近代史・社会政策
・経済学。Ph.d（経済学）、Dr.Phil.（歴史学）。
著書に『社会政策理論』第1巻、第2巻、第3
巻、『公共部門の管理能力』『デンマークにおける
高齢者福祉関係法令の発展』『ミクロ経済学入門』
『医療関係機関の厳しい選択』『社会福祉と市場』
『福祉国家逍遥 福祉国家を適正化するための11
の提言』『道徳書簡集 福祉国家の基本問題に関
する省察』など多数。

李 強

1950年北京生まれ。現在、清華大学社会学部
長、当代中国研究中心の主任。このほか中国社会
学会副秘書長、中国投資環境学会副理事長、国家
民政部（省）政策研究室顧問、全国总工会政策研
究室顧問などの職を兼任。本学と交流のある中国
人民大学社会学部の第二代学部長。再建後の中国
社会学会における代表的な社会学者である。専攻
は理論社会学、社会階層と社会移動、応用社会
学。著書に『中国大陸の貧富差別』『当代中国社会
分層与流動』『西方社会学史』『社会学原理』
『社会調査研究方法論』など多数。

大澤 真幸

京都大学大学院人間・環境学研究科助教授。経
歴：長野県松本市生まれ 東京大学大学院社会学

研究科博士課程修了 社会学博士 千葉大学教員
を経て、現職。専攻：社会学。著書：『行為の代
数学』（青土社）、『身体の比較社会学』（勁草書
房）、『虚構の時代の果て』（ちくま新書）、『恋愛
の不可能性について』（春秋社）、『く不気味なも
の』の政治学』（新書館）など。

鷺田小彌太

札幌大学経済学部教授。経歴：札幌市生まれ
大阪大学大学院文学研究科博士課程修了 三重短
期大学教員を経て、現職。専攻：哲学。著書：
『スピノザの方へ』（三一書房）、『昭和思想史』
（三一書房）、『大学教授になる方法』（PHP文
庫）、『現代思想』（潮出版）、『思考の技術・発想
のヒント』（日本実業出版社）、『柳田国男』（三一
書房）、など。

田畑 光永

神奈川大学経営学部教授。経歴：東京都生まれ
東京外国語大学中国科卒業 東京放送（北京支局
長、ニュースキャスター、香港支局長、解説室
長）を経て、現職。専攻：現代中国論。著訳書：
『鄧小平の遺産』（岩波新書）、『中国を知る』（岩
波ジュニア新書）、『テレビが中国を変えた』（J
ラル）、『中国の冬』（梁洪）、『私の囲碁の道』（聶
衛平）、など。

横田 恵子

大阪府立大学社会福祉学部専任講師。経歴：西
宮市生まれ 関西学院大学大学院社会学研究科博
士課程修了、社会福祉学博士 淀屋橋心理療法セ
ンター家族療法セラピスト、豊中市立保健セン
ター心理相談員を経て、現職。専攻：ソーシャル
ワーク。著書：『ワーカーの卓越性を決定する諸
要因の研究』（博士論文）、「機関に対するライフ
モデル・ソーシャルワークに関する一考察」（『社
会福祉学』38-1）、「公的機関における家族療法
グループスーパービジョンの制度化」（『地域福祉

研究』26)、など。

大村 英昭

関西学院大学社会学部教授。経歴：大阪市生まれ 京都大学大学院文学研究科博士課程修了 大阪大学教員を経て、現職。専攻：臨床社会学。著書：『新版、非行の社会学』（世界思想社）、『日本人の心の習慣』（NHK ライブラリー）、『逸脱の社会学』（共著、新曜社）、『現代人の宗教』（共著、有斐閣）、『現代社会と宗教』（岩波書店）、など。

チョン・ジーヨン（鄭 智泳）

1946年、青州（チョンジユ）生まれ。高麗大学卒業。映画同人グループ〈映像時代〉に参加し、金洙容（キム・スヨン）監督の助監督をへて、朝鮮戦争時のパルチザン部隊の壮絶な戦いを描いた『南部軍』（90年）などで社会派の映画監督として高い評価を受ける。ベトナム戦争に参戦した韓国軍兵士とその後を描いた『ホワイト・バッジ』（92年）で東京国際映画祭でグランプリと最優秀監督賞を受賞。

ステラ R. クオー

コロンビア国立大学を卒業後、フロリダ州立大学で社会学修士、シンガポール大学で Ph.D（社会学）を取得。1972年以来、シンガポール大学において教育・研究に従事している（現在、準教授）。専攻は、家族社会学、医療社会学、社会政策。94年～98年には、国際社会学会副会長を努めた。主著に、『シンガポールにおける家族』『実用主義の勝利』など。

杉本 良夫

1939年兵庫県生まれ。京都大学法学部卒業後新聞記者をへて米・ピッツバーグ大で博士号を取得。1973年からオーストラリアのラトロープ大で教鞭をとり、現在は人文社会科学部教授。NHK『ラジオ深夜便』の「ワールドネットワーク」でメルボルンを担当。豪州学士院会員。著書に『日本人をやめる方法』『オーストラリア—多文化社会の選択』『日本人論の方程式』ほかがある。

川勝 平太

1948年生まれ。早稲田大政治経済学部卒業。オックスフォード大で Ph.D を取得。早稲田大教授をへて、98年から国際日本文化研究センター教授。比較経済史が専門。地政学的な見地からの文明研究で知られる。『日本文明と近代西洋』、『文明の海洋史観』（読売論壇賞）ほか著書多数。

高坂 健次

1944年生まれ。関西学院大学社会学部を卒業後、大阪大学大学院をへて、米・ピッツバーグ大で Ph.D を取得。85年から関西学院大学社会学部で教鞭を取り、86年から同教授。99年から社会学部長。専門は数理社会学、理論社会学。アジア太平洋社会学会会長、日本社会学会理事。主な編著作に『社会学におけるフォーマル・セオリー』『社会学研究法』『地域都市の肖像』などがある。

＜編集後記＞

ここに「社会学部創立40周年記念号（別冊）」をお届けします。さまざまな機会に触れましたように、2000年度は学部創立40周年にあたりました。一年間、さまざまな講演会やシンポジウムを開催しました。その内容の大部分をここに採録することで、長く記録として残せることになったことは、企画を担ったものとしても大変嬉しいことです。あらためて、それぞれの講師やパネリストをお引き受けくださった方々、また誌上への採録をご快諾いただいた方々、通訳や邦訳をお引き受けくださった方々に御礼申し上げます。学部はいま2003年のカリキュラム改革に向けて取り組んでいるところですが、学部の将来像を考える上でも刺激やヒントになればと思います。

本来ならテープ起こしをした原稿に、原著者の手で筆を入れていただかなくてはならないところですが、今回はさまざまな制約からそれが必ずしも果たせませんでした。講演者やパネリストからは怨嗟の声が聞こえてきそうですが、どうかご海容をお願いしたいと存じます。と同時に、読者の方ではそうした幾分の限界のあることを承知して読んでいただければ幸いです。とくに、二つのシンポジウムについては、私自身の耳でテープを聞き直したりして補正を行った箇所も少なくありません。その意味では、最終の原稿についての責任はすべて私にあることを申し添えます。

40周年記念行事委員会より、阿部潔委員に短い「あとがき」を執筆していただきました。阿部さんは社会学部のOBでもあります。私とでは20年ほどの開きがありますが、40年の歴史の大過去、過去、現在を通観し、未来を展望する上でこの別冊を一層興味深いものとすることができました。

一つの講演会、シンポジウムも多くの方々のご協力があったはじめて可能となるものです。別冊もその例外ではありません。毎号のことながら、事務室の湯原陽里香さんにはお世話になりました。記して感謝申し上げます。

(高坂健次)

2001年3月1日 印刷

2001年3月15日 発行

編集発行人

高坂健次

発行所

関西学院大学社会学部研究会

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町

関西学院大学社会学部内

電話(0798)(54)6202

印刷所

尼崎印刷株式会社

〒661-0957 尼崎市下坂部3丁目9番20号

電話(06)6494-1122(代)

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

**SCHOOL OF
SOCIOLOGY
JOURNAL**

**40th Anniversary
Special Issue**

**The School of Sociology Study Association
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY**